



平成 26 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 黒田精工株式会社
 代表者名 取締役社長 黒田 浩史
 (コード番号 7726 東証 第 2 部)
 問合せ先 経理部長 荻窪 康裕
 (TEL 044 - 555 - 3800)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 26 年 5 月 14 日に公表した平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 27 年 3 月期 第 2 四半期（累計） 連結業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	7,200	80	140	120	4 円 27 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	6,658	211	106	97	3 円 45 銭
増 減 額 (B - A)	542	291	246	217	
増 減 率 (%)	7.5	-	-	-	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期)	5,428	251	187	1,047	37 円 33 銭

(2) 平成 27 年 3 月期 通期 連結業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	14,400	160	280	240	8 円 54 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	13,900	55	150	40	1 円 42 銭
増 減 額 (B - A)	500	215	130	200	
増 減 率 (%)	3.5	-	46.4	-	
(ご参考) 前期通期実績 (平成 26 年 3 月期)	12,109	257	66	853	30 円 41 銭

(3) 平成 27 年 3 月期 第 2 四半期（累計） 個別業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,600	50	100	80	2 円 84 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	5,298	158	26	22	0 円 78 銭
増 減 額 (B - A)	302	208	126	102	
増 減 率 (%)	5.4	-	-	-	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期)	4,232	282	178	931	33 円 15 銭

(4) 平成 27 年 3 月期 通期 個別業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	11,200	100	200	160	5 円 69 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	11,140	40	180	90	3 円 20 銭
増 減 額 (B - A)	60	60	20	70	
増 減 率 (%)	0.5	60.0	10.0	43.8	
(ご参考) 前期通期実績 (平成 26 年 3 月期)	9,508	211	12	819	29 円 21 銭

2. 修正理由

連結業績予想の修正は、個別業績予想の修正の影響に加え、マレーシア子会社が大口顧客の生産の急激な落ち込みにより業績が低迷し赤字を計上したことが主たる要因です。

個別業績予想の修正は、第2四半期累計期間において、新基幹情報システムの導入に伴う混乱の影響やプレス部品の大口顧客の生産調整の影響から売上が下振れしたこと、円安により海外からの調達コストが増加したこと、売上げが下振れする中で人件費や電力料等が増加したことにより損益が圧迫されたこと、等によるものです。

なお、本年度の後半については、以下に述べる状況から業績は堅調に推移するものと予想しております。全社的に受注残は高水準で推移しており、新基幹情報システムの導入に伴う混乱が収束しつつあることから下期の売上の改善を見込んでいます。機工・計測システム事業については、10月30日から11月4日にかけて開催された日本国際工作機械見本市で発表した新商品を含めた工作機械ならびにそれに付随した要素機器の受注・引合が活発であることや、超精密測定システム(ナノIT)の高精度版の開発が完了したことから、下期の業績への寄与が期待されます。金型事業部については、金型の受注が堅調であり下期の売上への寄与が見込まれることに加えて、先般合意した接着積層技術のライセンス契約を含めたユーログループとの提携の効果が今後具体化してくることが期待されます。海外子会社については、売上の低迷を受けた緊急収益対策を実行中であり、下期においては更なる業績の落ち込みはないと見ております。

上記の予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上